

第1学年 単元別学習内容一覧

◎ 算数への導入 (わくわく すたあと)			
小見出し	時	ページ	学習内容
あそびが つながる うれしいな どきどき がっこう	1	0~3	○これから学ぶ算数に対して興味や関心をもつ。【態度】 ○タンボボや亀など、同じものをぜんぶまとめて囲む。【知・技】
	2	4~5	○鳥と巣箱、蝶と花など、1対1に対応づけて数の多少を調べる。【知・技】
	3	6~7	○ジョウロとバケツなど、具体的なものを数図ブロックに置き換えて数の多少を調べる。【思判表】

1 かずと すうじ (わくわく すたあと)			
小見出し	時	ページ	学習内容
○ 10までの数について、よみ方、かき方、数の系列、大小を理解し、5までの数の合成・分解の仕方を考える活動や、具体物と数図ブロックを対応させる活動を通して、ものの個数を数で表すよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			7時間 2学期制：4月中旬～5月上旬 3学期制：4月中旬～5月上旬
(知) ・10までの数の数概念、よみ方、かき方、数系列、大小を理解している。 ・5までの数の合成・分解ができる。			
(思) ・ものの集まりをとらえ、数を数え、数を表す考え方を身につける。			
(態) ・10までのものの個数を、数で表すよさを知り、進んで用いようとする。			
5までの かず	1	8~9	○教室にある5までの数に関心を持って調べる。【態度】 ○教室のあるものと数図ブロックを対応させて、5までの数を数えたり、数字をよんだりする。【知・技】
	2	10	○5までの数の数字をかいたり、順序よく数えたりする。【知・技】
	3	11	○5までのものの数を数えて、数字で表す。【知・技】 ○おはじきなどを使って、5までの数の合成・分解をする。【思判表】
10までの かず	4	12~13	○校庭にある10までの数に関心を持って調べる。【態度】 ○校庭にあるものと数図ブロックを対応させて、10までの数を数えたり、数字をよんだりする。【知・技】
	5	14~15	○10までの数の数字をかいたり、順序よく数えたりする。【知・技】 ○身のまわりから10までの数のものを見つける。【態度】
ならべよう	6	16	○10までの数や数字にあうように、数図ブロックを並べる。【知・技】
いって みよう・くらべよう・かぞえよう	7	17	○10までの数を唱えたり、大小を比べたり、音が鳴った回数を数えて数字で表したりする。【知・技】

2 なんばんめ			
小見出し	時	ページ	学習内容
○ 順序数について、数が順序を表す場合に用いられることを理解し、方向や位置を表すことばでの順番や位置を表す活動を通して、順序数を用いるよさを感じながら学ぶ態度を養う。			3時間 2学期制：5月中旬 3学期制：5月中旬
(知) ・数が順序を表す場合に用いられることを理解し、「前後」「左右」「上下」などの方向や位置を表すことばを正しく用いて、ものの順番や位置を数で表すことができる。			
(思) ・「前後」「左右」「上下」などの方向や位置を表すことばに着目し、数を用いてものの順番や位置を表すことを考えることができる。			
(態) ・順番や位置を数で表すことのよさに気づき、進んで順番や位置を数で表そうとする。			
	1	18~19	○前後、上下、左右に並んだものをみて、順序や位置を表す。【態度】
	2	20	○「前から何番目」(順序数)と「前から何人」(集合数)との違いを理解する。【知・技】
	3	21	○自ら起点を定めて、ものの位置を表す。【知・技】

3 いくつと いくつ			
小見出し	時	ページ	学習内容
○ 6, 7, 8, 9, 10の数について、数図ブロックを操作しながらそれぞれの数の合成・分解を考える活動を通して、10の補数関係を理解したり、0について知ったりするとともに、親しみながら学ぶ態度を養う。			7時間 2学期制：5月中旬～5月下旬 3学期制：5月中旬～5月下旬
(知) ・6, 7, 8, 9, 10の合成・分解と、10の補数関係を理解する。 ・0について理解し、「1つもない」ことを0と表現できる。			
(思) ・1つの数をほかの数と関係づけて見ることができる。			
(態) ・数の合成・分解に興味、関心をもち、進んで合成・分解をしようとする。			
0と いう かず	1	22~23	○いすとりゲームを通して、6の合成・分解をする。【態度】
	2	24	○7の合成・分解をする。【知・技】
	3	25	○8の合成・分解をする。【知・技】
	4	26	○9の合成・分解をする。【知・技】
	5	27	○「おはじきいれ」ゲームを通して、いろいろな10の合成・分解をする。【知・技】
	6	28	○10の補数を考えて、10の合成・分解をする。【思判表】
○「おはじきいれ」ゲームを通して、0の意味や使い方を理解する。【知・技】	7	29	

4 いろいろな かたち

目標				指導時数・時期
○ 立体について、箱や缶を用いて立体を組み立てる活動や、立体の面に着目して写し取った形をいかして絵をかく活動などを通して、ものの形を認めたり、形の特徴を考えたりするとともに、形に親しみながら学ぶ態度を養う。				3時間 2学期制：6月上旬 3学期制：6月上旬
(知)・身のまわりにある立体の観察を通して、形の特徴をとらえたり、なかま分けしたりすることができる。				
(思)・身のまわりのものを、色や大きさ、材質に関係なく、形としてとらえることができる。				
(態)・立体図形の特徴や機能について興味・関心をもち、楽しく作業をしながら基本的な形をとらえようとする。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
にて いる かたち	1	30~31	○箱や缶の特徴や機能に着目し、動物や乗り物などの形をつくる。【態度】	
かたちを うつして	2	32~33	○箱や缶、ボールなどを、形の特徴に着目してなかま分けする。【知・技】	
	3	34~35	○積み木の面を写しつつ、面の形の特徴を利用して絵をかく。【思判表】	

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	36~37	○既習事項の確認と持続

5 ふえたり へったり

目標				指導時数・時期
○ 変化する数量について、増減を数図ブロックや「ふえた」「へった」ということばで表現することを通して、数の増減の意味を理解し、たし算やひき算の学習の素地を培うとともに、楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				1時間 2学期制：6月上旬 3学期制：6月上旬
(知)・数量の増減に着目し、「ふえた」「へった」ということばで話をしたり、数図ブロックを操作したりして、増減の意味を理解する。				
(思)・増減の意味を具体的な事象や操作と関連づけて考えることができる。				
(態)・数量が「ふえたり」「へったり」する事象に興味・関心をもち、進んで変化の様子をとらえようとする。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	38~39	○「バスごっこ」を通して、数量の増減する場面を体験的に理解する。【態度】	

6 たしざん(1)

目標				指導時数・時期
○ たし算について、式のよみ方、かき方を知り、数図ブロックや計算カードを用いた活動を通して、(1位数)+(1位数)=(10以下の数)の計算ができるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				7時間 2学期制：6月中旬～6月下旬 3学期制：6月中旬～6月下旬
(知)・たし算が用いられる場面やたし算の記号と式について知り、合併や増加の場面をたし算の式に表し、(1位数)+(1位数)=(10以下の数)の計算をすることができる。				
(思)・合併や増加の場面を、同じたし算と考えることができる。				
(態)・たし算が用いられる場面に興味をもち、たし算の式に表せるよさを知り、進んでたし算を用いようとする。				
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース
あわせて いくつ	1	40~41	・具体的な場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、たし算のイメージをていねいにつくる。	○3匹と2匹のカエルが集まる場面で、数図ブロックを操作して「合併」の場面を理解する。【知・技】
	2	42~43	・具体的な場面と対応させながら、数図ブロックの操作や式に表すことを繰り返して、たし算の意味や表現を定着させる。	○合併の場面で、5+3や2+4のたし算の式を知り、たし算の式にかいて答えを求める。【知・技】
ふえると いくつ	3	44	・具体的な場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、たし算のイメージをていねいにつくる。	○4匹のカエルに2匹加わる場面で、数図ブロックを操作して「増加」の場面を理解する。【知・技】
	4	45	・具体的な場面と対応させながら、数図ブロックの操作や式に表すことを繰り返して、たし算の意味や表現を定着させる。	○増加の場面で、5+2や3+6のたし算の式にかいて答えを求める。【知・技】
たしざんの もんだい	5	46	・問題文をよんで、まず、わかつていること、求めることをはっきりさせる。 ・具体的な場面から、数図ブロックの操作や式に表すことが確実にできるようにする。	○文章や絵から、合併や増加の場面であることをとらえて、たし算の式に表して答えを求める。【思判表】

たしざんの かあと	6 ・ 7	47	・p.171「かあとげえむ」では、「こたえは いくつ」で十分に習熟をはかる。	○たし算のカードを使って、たし算について習熟する。【態度】	★p.171「かあとげえむ」の「なかまつめ」では、答えが2から10までになるたし算の式を自らつくる。
-----------	-------------	----	--	-------------------------------	--

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	48~49	○既習事項の確認と持続

7 ひきざん(1)

目標				指導時数・時期	
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
のこりは いくつ	1	50~51	・具体的な場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、ひき算のイメージをていねいにつくる。	○カエルが5匹いて2匹減る場面で、数図ブロックを操作して「求残」の場面を理解する。【知・技】	
	2	52~53	・具体的な場面と対応させながら、数図ブロックの操作や式に表すことを繰り返して、ひき算の意味や表現を定着させる。	○求残の場面で、8-3や6-2のひき算の式を知り、ひき算の式にかいて答えを求める。【知・技】	★けいさんのれんしゅう p.168の問2に進む。
	3	54	・具体的な場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、ひき算のイメージをていねいにつくる。	○7頭のコアラのうち4頭がオスのとき、メスが何頭かを求める場面で、数図ブロックを操作したり、ひき算の式に表したりして、「求部分」の場面を理解する。【知・技】	★8-3=5や7-4=3などのひき算の式をみて、数図ブロックを操作したり、求残や求部分の具体的な場面のお話づくりをしたりして、ひき算の意味や表現を豊かにする。
ひきざんの かあと	4 ・ 5	55	・p.171「かあとげえむ」では、「こたえは いくつ」で十分に習熟をはかる。	○ひき算のカードを使って、ひき算について習熟する。【態度】	★p.171「かあとげえむ」の「なかまつめ」では、答えが1から9までになるひき算の式を自らつくる。
ちがいは いくつ	6	56	・具体的な場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、ひき算のイメージをていねいにつくる。	○5匹のカエルと3匹のカエルの多少を比べる場面で、数図ブロックを操作して「求差」の場面を理解する。【知・技】	
	7	57	・具体的な場面と対応させながら、数図ブロックの操作や式に表すことを繰り返して、ひき算の意味や表現を定着させる。	○「どれだけ多いか」を求める場面で、6-2や8-3のひき算の式にかいて答えを求める。【知・技】	★6-2=3や8-3=5などのひき算の式をみて、数図ブロックを操作したり、求差の具体的な場面のお話づくりをしたりして、ひき算の意味や表現を豊かにする。
	8	58	・具体的な場面と対応させながら、数図ブロックの図、式に表すことを繰り返して、ひき算の意味や表現を定着させる。	○「ちがいはどれだけか」を求める場面で、どちらが多いかを考えて、ひき算の式にかいて答えを求める。【思判表】	★どちらがどれだけ多いかを、数図ブロックの図や式を使って説明する。
ひきざんの もんだい	9	59	・問題文をよんで、まず、わかつていること、求めることをはっきりさせる。 ・具体的な場面から、数図ブロックの操作や式に表すことが確実にできるようにする。	○文章や絵から、求残や求差の場面であることをとらえて、ひき算の式に表して答えを求める。【思判表】	★求残・求差の問題をつくって、解きあう。
おはなしづくり	10	60~61		○たし算やひき算の式を具体的な場面に表すことで、たし算やひき算の式について理解を深める。【思判表】	

8 かずしらべ

目 標				指導時数・時期
○ ものの個数について、簡単な絵や図に表したり、よみとったりする活動を通して、身の回りの事柄の特徴をとらえることができるようになるとともに、数量を整理するよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				1時間 2学期制：7月中旬 3学期制：7月中旬
(知) ・ものの個数について、簡単な絵や図に表したり、それらをよみとったりできる。 (思) ・ものの個数に着目し、身のまわりの事柄の特徴を捉えることができる。 (態) ・身のまわりの事柄に关心をもち、ものの個数を簡単な絵や図に表すよさに気づき、進んで数量を整理しようとする。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	62~63	○ものの数を絵グラフに表し、多少を比較するなどして、事柄の特徴を捉える。【思判表】	

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	64~65	○既習事項の確認と持続

9 10より おおきい かず

目 標				指導時数・時期
○ 20までの数について、よみ方、かき方、数の系列、大小を理解し、「10といいくつ」という数構成の考え方にもとづいて加減計算をしたり数を表したりするとともに、数に親しみながら学ぶ態度を養う。				8時間 2学期制：7月中旬～9月上旬 3学期制：9月上旬～9月下旬
(知) ・20までの数について、構成、系列や大小関係を理解し、よんだり、かいたりすることができる。 ・数構成にもとづく加減計算ができる。				
(思) ・「10といいくつ」という数の考え方ができる。数構成にもとづく加減計算の仕方を考えることができる。				
(態) ・「10といいくつ」によって20までの数を表すよさを知り、進んで用いようとする。				
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース
かずの ならびかた	1	66~67	・具体物に数図ブロックを置きながら数えて、数字を対応させて数のよみ方を理解させる。	○うさぎやきのこ、花の数を調べて、11から20までの数の数え方とよみ方を理解する。【知・技】
	2	68	・まず、全体で20までの数を繰り返し唱えたり、数図ブロックでつぶったりしてから、問2や問3に取り組ませる。	○11から20までの数を、数字でかいたり、数図ブロックで並べてつぶったりする。【知・技】 ○11から20までの数の大小を比較する。【知・技】
	3	69	・問5の⑥や⑦では、「2ずつ」「5ずつ」の数え方を具体物と対応させながら繰り返し唱える。	○「2ずつ」「5ずつ」の数え方を工夫し、それを用いて数える。【思判表】
10と いくつ	4	70~71	・数字と数図を対応させて、「10といいくつ」という見方を定着させる。	○10と5で15、16は10と5といった「10といいくつ」という見方で、20までの数をとらえる。【思判表】 ○身のまわりから、20までの数のものをみつける。【態 度】
	5	72~73	・0から20まで数字カード並べたら、まず、それをみて順や逆によむ練習をする。	○0から20までの数字カードを並べる活動を通して、20までの数の系列や数直線について理解する。【知・技】
たしざんと ひきざん	6	74	・数図ブロックを操作して、「10といいくつ」という見方と、たし算やひき算の仕方とを対応づける。	○10個の卵と4個の卵をあわせる場面で、10+（いくつ）のたし算をする。【知・技】 ○12枚の折り紙のうちの2枚を使った場面で、（十何）-（何）で10になるひき算をする。【知・技】
	7	75	・数図ブロックを操作して、「10といいくつ」という見方と、たし算やひき算の仕方とを対応づける。	○「10といいくつ」という見方を働かせて、12+4や15-3のたし算やひき算をする。【思判表】
学びのまとめ	8	76~77	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1～問3 【態 度】ふりかえろう

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	78~79	○既習事項の確認と持続

10 なんじ なんじはん

目標				指導時数・時期
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	80~81	○1日の生活場面で、時刻のよみについて、興味と関心をもつ。【態度】 ○時計のしくみを知り、何時、何時半の時刻をよみ、つくる。【知・技】	

11 おおきさくらべ(1)

目標				指導時数・時期
小見出し	時	ページ	学習内容	
			○ものの長さ・かさについて、直接比較や間接比較を用いて長さやかさを調べる活動を通して、長さ・かさの概念を理解するとともに親しみながら学ぶ態度を養う。	5時間 2学期制：9月中旬～9月下旬 3学期制：9月下旬～10月上旬
(知)			・長さ・かさの概念を理解し、具体物の長さ・かさの比較ができる。	
(思)			・長さ・かさの比較を通して、測定の基礎となる考え方を身につける。	
(態)			・長さ・かさのくらべ方に興味をもち、そのよさを知り、進んでいかそうとする。	
ながさくらべ	1	82~83	○長さ比べという活動に興味・関心をもち、直接比較で長さを比べる。【態度】	
	2	84	○テープを使っていろいろなものの長さをはかり、間接比較で長さを比べる。【知・技】	
	3	85	○机の縦と横の長さを比べる活動などを通して、基準量のいくつ分で長さを比べられることを理解し、そのよさに気づく。【思判表】	
かさくらべ	4	86	○一方の容器の水を他方に移したり、別の容器に移したりして、かさ比べをする。【知・技】	
	5	87	○コップを単位として、その何杯分かでかさを比べられることを理解し、そのよさに気づく。【思判表】	

12 3つの かずの けいさん

目標				指導時数・時期	
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	88~89	・具体的な場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、2回増えるときの式をていねいにつくる。	○3つの数の計算(+, +)の場面を理解し、1つの式にかいて計算する。【知・技】	★ $5+3+2=10$ などの式をみて、数図ブロックを操作したり、具体的な場面のお話づくりをしたりして、式の見方を豊かにする。 ★けいさんのれんしゅう p.169 の問題5の①～③に進む。
	2	90	・具体的な場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、2回減るときの式をていねいにつくる。	○3つの数の計算(−, −)の場面を理解し、1つの式にかいて計算する。【知・技】	★ $10-3-2=5$ などの式をみて、数図ブロックを操作したり、具体的な場面のお話づくりをしたりして、式の見方を豊かにする。 ★けいさんのれんしゅう p.169 の問題5の④～⑥に進む。
	3	91	・具体的な場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、減って増えるときの式をていねいにつくる。	○3つの数の計算(−, +)の場面を理解し、1つの式にかいて計算する。【思判表】	★ $5-2+4=7$ などの式をみて、数図ブロックを操作したり、具体的な場面のお話づくりをしたりして、式の見方を豊かにする。 ★けいさんのれんしゅう p.169 の問題5の⑦～⑨に進む。
	4	92	・具体的な場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、増えて減るときの式をていねいにつくる。	○3つの数の計算(+, −)の場面を理解し、1つの式にかいて計算する。【思判表】	★ $7+3-8=2$ などの式をみて、数図ブロックを操作したり、具体的な場面のお話づくりをしたりして、式の見方を豊かにする。 ★コラム「4つの かずの けいさん」に取り組む。 ★けいさんのれんしゅう p.169 の問題5の⑩～⑫に進む。

* ふくしゅう

小单元	時	ページ	学習内容
	1	93	○既習事項の確認と持続

13 たしざん(2)

目 標				指導時数・時期	
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
たしざんの かあど	1	94~95	・数図ブロックを用いて 10 をつくる操作を身につけさせる。	○8+3 のように(1 位数)+(1 位数)で繰り上がりのあるたし算を、数図ブロックを使って計算し、10 をつくればよいことに気づく。【態度】	★計算の仕方を、数図ブロックやことばで説明する。
	2	96~97	・数図ブロックを用いて 10 をつくる操作を繰り返して、繰り上がりのたし算の仕方を身につけさせる。	○7+4 のように(1 位数)+(1 位数)で繰り上がりのあるたし算を、10 の補数を利用して計算する。【思判表】	★繰り上がりのあるたし算のしかたを、数図ブロックとことばを関連づけて説明する。
	3	98	・数図ブロックを用いて、被加数があといくつで 10 になるかに着目させる。	○9+8 のように被加数が 6 以上のたし算の計算をする。【知・技】	★繰り上がりのあるたし算のしかたを、数の処理とことばを関連づけて説明する。
	4	99	・数図ブロックを用いて、被加数があといくつで 10 になるかに着目させる。	○4+8 のように被加数が 5 以下のたし算の計算をする。【知・技】	★コラム「4+8 のけいさんのしかた」を紹介し、被加数分解での計算に取り組む。 ★けいさんのれんしゅう p.169 の問6に進む。
学びのまとめ	5 ~ 7	100	・p.171「かあどげえむ」では、「こたえは いくつ」で十分に習熟をはかる。	○たし算カードを使って、繰り上がりのあるたし算を練習し、習熟する。【知・技】	★p.171「かあどげえむ」の「なかもあつめ」では、答えが 11 から 18 までになる(1 桁)+(1 桁)の式を自らつくる。
	8	101	・被加数、加数の小さい順にたし算カードを示し、その答えをいわせながら並べていく。	○たし算カードの答えが同じになるものを順序よく並べ、並び方のきまりを調べる。【態度】	★見通しをもって順序よくたし算カードを並べ、きまりを見いだしたり、説明したりする。
学びのまとめ	9	102~103	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【態度】たしかめよう問3 ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

14 かたちづくり

目 標				指導時数・時期
○ 形づくりについて、色板や棒などを使って様々な形を作る活動を通して、図形を構成する力と観察する力を身に付けるとともに、形に親しみながら学ぶ態度を養う。				5 時間 2 学期制：11 月上旬～11 月中旬 3 学期制：11 月上旬～11 月中旬
(知) ・色板や棒などを使っていろいろな形が構成されていることを理解し、いろいろな形をつくることができる。				
(思) ・図形を構成したり観察したりするときの基本的な見方・考え方を身につける。				
(態) ・色板や棒などを使っていろいろな形をつくることに興味・関心をもち、意欲的に取り組もうとする。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	104	○色板を使っていろいろな形をつくることに興味・関心をもち、意欲的に図形の構成に取り組む。【態度】	
	2	105	○色板の並べ方を工夫して、影絵の形を構成する。【思判表】	
	3	106	○棒の並べ方を工夫して、いろいろな形を構成する。【知・技】	
	4	107	○点をつないでいろいろな形を構成する。【知・技】	
	5	108	○図形の変化に着目して、色板や棒を動かす。【思判表】	

* ふくしゅう

小单元	時	ページ	学習内容
	1	109	○既習事項の確認と持続

15 ひきざん(2)

目 標					指導時数・時期
○ (十何)ー(1位数)について、繰り下がりのある場合の計算の仕方を考えることを通して、計算が確実にできるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					11 時間 2 学期制：11月中旬～12月上旬 3 学期制：11月中旬～12月上旬
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	110～111	・数図ブロックを用いて10からとの操作を身につけさせる。	○13-9のように(十何)ー(1位数)で繰り下がりのあるひき算を、数図ブロックを使って計算し、10からひけばよいことに気づく。【態度】	★計算の仕方を、数図ブロックやことばで説明する。
	2	112～113	・数図ブロックを用いて10からとの操作を繰り返して、繰り下がりのひき算の仕方を身につけさせる。	○12-7のように(十何)ー(1位数)で繰り下がりのあるひき算を、10の補数を利用して計算する。【思判表】	★繰り上がりのあるたし算のしかたを、数図ブロックとことばを関連づけて説明する。
	3	114	・数図ブロックを用いて、10から減数をひくといくつになるかに着目させる。	○15-9のように減数が6以上(9, 8, 7, 6)のひき算の計算をする。【知・技】	★繰り上がりのあるたし算のしかたを、数の処理とことばを関連づけて説明する。
	4	115	・数図ブロックを用いて、10から減数をひくといくつになるかに着目させる。	○13-4のように減数が5以下(5, 4, 3, 2)のひき算の計算をする。【知・技】	★コラム「13-4のけいさんのしかた」を紹介し、減々法での計算に取り組む。 ★けいさんのれんしゅう p.169 の問7に進む。
ひきざんの かあど	5 ～ 7	116	・p.171「かあどげえむ」では、「こたえは いくつ」で十分に習熟をはかる。	○ひき算カードを使って、繰り下がりのあるひき算を練習し、習熟する。【知・技】	★p.171「かあどげえむ」の「なまかあつめ」では、答えが2から9までになる(十何)ー(1桁)の式を自らつくる。
	8	117	・被減数、減数の小さい順にたし算カードを示し、その答えをいわせながら並べていく。	○ひき算カードの答えが同じになるものを順序よく並べ、並び方のきまりを調べる。【態度】	★見通しをもって順序よくひき算カードを並べ、きまりを見いだしたり、説明したりする。
かずあて げえむ	9	118	・「かずあてげえむ」では、たし算なら加数、ひき算なら減数というように、裏返すところを決めて行う。	○数字や+、-、=のカードを使って、いろいろなかけ算やひき算の式をつくる。【知・技】 ○数字カードのどれかを裏返した式をつくり、その数字が何かをあてる「かずあてげえむ」をする。【思判表】	★「かずあてげえむ」で、裏返された数字が何かをあてるのに、どのように考えたかを説明する。
けいさんの かみしばい	10	119		○たし算やひき算の紙芝居づくりを通して、計算のお話をつくること(作問)に興味や関心をもつ。【態度】	★問3では、3口の計算になる紙芝居づくりに取り組む。
学びのまとめ	11	120～121	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

16 0の たしざんと ひきざん

目 標					指導時数・時期
○ 0を含むたし算、ひき算について、0の扱いを考えることを通して、計算の意味を理解し、計算ができるようになるとともに、日常生活にいかしながら学ぶ態度を養う。					2 時間 2 学期制：12月上旬 3 学期制：12月上旬
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	122	・具体的な場面と式とを対応づけて、0をたすたし算の式の意味をおさえる。	○玉入れの場面で、0のたし算の式や計算について理解する。【知・技】	★けいさんのれんしゅう p.170 の問8の①～⑧に進む。
	2	123	・具体的な場面と式とを対応づけて、0をひくひき算の式の意味をおさえる。	○ボーリングの場面で、0のひき算の式や計算について理解する。【知・技】	★けいさんのれんしゅう p.170 の問8の⑨～⑯に進む。

17 ものと ひとの かず

目 標					指導時数・時期
○ ある数量を他の数量に置き換える問題や順序数に関する問題について、絵や図を用いて考えることを通して、それらの問題を解くことができるようになるとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					3時間 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬
(知) ・ある数量を他の数量に置き換えることの意味を理解することができる。 ・順序数と集合数について理解を深めることができる。					
(思) ・絵や図を活用して、ある数量を他の数量に置き換えて考えたり、並んでいる数からその順番を考えたりすることができる。					
(態) ・図を使って考えるよさに気づき、進んでいかそうとする。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	124	・具体的な活動を通して、問題場面をとらえさせる。	○14枚の乗り物券を9人の子どもに配るといった場面で、ある数量を他の数量に置き換えて問題を解く。【思判表】	★問1の場面で、乗り物券の数と子どもの数を入れかえて、何枚足りないかを考える問題に取り組む。
なんばんめ	2	125	・具体的な活動を通して、問題場面をとらえさせる。	○前に7人いて前から何番目かを考えるといった場面で、順序数と集合数の問題を解く。【思判表】	★問2の場面で、「まえ」を「うしろ」にかえた問題に取り組む。
	3	126	・具体的な活動を通して、問題場面をとらえさせる。	○前から3場面で、後ろに9人いるといった場面で、順序数と集合数の問題を解く。【思判表】	★問3や問4と同じ場面で、いろいろに数を取り換えた問題に取り組む。

活 ものの いち

小見出し	時	ページ	学習内容
	1	127	○「たからさがし」の活動を通して、平面上の位置の表し方を理解する。

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	128~129	○既習事項の確認と持続

18 大きい かず

目 標					指導時数・時期
○ 100までの数や100を少しこえる数について、ものの個数や順番を正しく数える活動を通して、数の系列を理解し、大小判断ができるようになるとともに、数に親しみながら学ぶ態度を養う。					13時間 2学期制：1月中旬～2月上旬 3学期制：1月中旬～2月上旬
(知) ・十進法を理解し、100までの数や100を少しこえる数の表し方や意味がわかる。100までの数や100を少しこえる数について、数字でかいたり数直線上に表したりするとともに、数の大小比較ができる。					
(思) ・100までの数を「10がいくつと1がいくつ」、100を少しこえる数を「100がいくつ」という見方でとらえることができる。					
(態) ・100までの数を10ずつまとめて数えるよさに気づき、身のまわりから進んで100までの数字をみつけようとする。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
かずのかぞえかた	1	130~131	・問1では、まず、1, 2, 3, …と1本ずつ数えて、20をこえる数の数え方を確認する。 ・問3では、計算棒を使って、「10のまとまり」をつくる数を数えたり、数をつくりたりする練習を繰り返す。	○数え棒の数え方を工夫し、10のまとまりをつくる数を数えるよさに気づく。【態度】 ○20をこえる数の数え方を理解する。【知・技】	
かずのかきかた	2	132	・問3では、十の位の数と一の位の数から、計算棒を使って数をつくる練習をする。	○26や30を数字でかき、十進位取り記数法の仕組みに気づく。【思判表】	
	3	133		○十進位取り記数法に基づいて、2位数の構成の理解を深める。【知・技】	
100までのかず	4	134	・問1では、100枚の葉っぱの絵と対応させて10, 20, 30, …と10ずつ数える練習をする。 ・100枚の葉っぱの絵を使って、見えている部分が何十枚になるように隠したとき、見えている葉っぱの数や隠れている葉っぱの数を答える問題に取り組む。	○100枚の葉っぱの絵を使って、100までの数の数え方や表し方に習熟し、100について理解する。【知・技】 ○計算棒を使って、何十何に何本かたして何十、九十何に何本かたして百をつくる練習をする。【知・技】	★何十の計算棒をみてあといつで百になるか、何十何の計算棒をみてあといつで百になるかを考える問題に取り組む。

	5	135	<ul style="list-style-type: none"> 問2では、まず、1から100までの数表をみて、順や逆に唱える練習をする。次に、自身で1から100までの数表をつくる。 問3では、数表をみて答えられればよいものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○100までの数の数表を完成させ、それを使って数構成や数の系列の理解を深める。【態度】 	<p>★100までの数表にあるきまりをみつける。</p> <p>★問3のような問題をつくり、解きあう。</p>
	6	136		<ul style="list-style-type: none"> ○おはじきゲームを通して、100までの数の大きさくらべをする。【思判表】 	<p>★2つの数のどちらが大きいかを「十の位」「一の位」という用語を用いて説明する。</p>
	7 ・ 8	137		<ul style="list-style-type: none"> ○数字カードや数直線を使って、100までの数の系列や順序を理解する。【知・技】 ○すごろく遊びを通して、100までの数について理解を深める。【態度】 	<p>★問8の後に、「2ずつ増える」「5ずつ増える」数の直線をかく。</p>
学 さがして みよう	9	138		<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりで100までの数が使われている場面を調べ、数字を使うよさに気づく。【態度】 	
かいもの	10	139		<ul style="list-style-type: none"> ○買い物場面でお金の出し方を考えることを通して、数の合成・分解に習熟し、数の感覚を豊かにする。【思判表】 	<p>★1円玉が4枚、5円玉が5枚、10円玉が2枚、50円玉が1枚というように、それぞれの枚数を決めて、何円ならつくれるかを考える問題に取り組む。</p>
100を こえる かず	11	140	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、10が10個で100であることを、計算棒を使って確認する。 ・問1では、100といくつという見方を、計算棒、命数法、記数法を対応させながらいねいにおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○100と13で113、100と20で120、100と6で106というように、100といくつという見方で、100をこえる数の構成について理解する。【思判表】 	<p>★計算棒、命数法、記数法の対応を問う問題をつくり、解きあう。</p>
	12	141	<ul style="list-style-type: none"> ・耳で聞いた数を数字でかく練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数表や数直線で、100をこえる数の順序について理解する。【知・技】 	<p>★問3では、130程度までの数の数表を自分の力でつくる。</p>
学びのまとめ	13	142～143	<ul style="list-style-type: none"> ・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【態度】ふりかえろう 	<p>★やってみよう取り組む。</p>

19 なんじ なんぶん

目標

- 時計や時刻について、長針、短針のさす目盛りに着目して時刻を考えることを通して、何時何分をよんだり文字盤で表したりできるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。
- (知) ・時計の文字盤の仕組みについて知り、何時何分の時刻のよみ方を理解している。
・何時何分の時刻をよんだり、文字盤で表したりすることができる。
- (思) ・時計の長針・短針のさす目盛りに着目して、時刻を考えることができる。
- (態) ・日常生活場面に即して、進んで何時何分をよもうとする。

指導時数・時期

2時間
2学期制：2月中旬
3学期制：2月中旬

小見出し	時	ページ	学習内容
	1	144～145	○時計のよみに興味をもち、何時何分の時刻をよむ。【態度】
	2	146	○何時何分の時刻を正しくよんだり、つくったりする。【知・技】

20 おなじ かずずつ

目標

- 同じ数ずつに分ける場面について、ブロックを使って等分したりまとめて数えたりする活動や、図や式にかいて確かめる活動を通して、乗法や除法の素地を培うとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。
- (知) ・数図ブロックの操作を通して、乗法や除法の素地となる「同じ数ずつ」の意味を理解する。
・乗法や除法の素地となるブロック操作ができ、それを図や式にかいて確かめることができる。
- (思) ・等分したりまとめて数えたりして、乗法や除法の素地的な見方で数を考えることができる。
- (態) ・具体物を等分したりまとめて数えたりし、それを進んで整理し表そうとする。

指導時数・時期

1時間
2学期制：2月中旬
3学期制：2月中旬

小見出し	時	ページ	学習内容
	1	147	○かけ算やわり算の素地となる「同じ数ずつ」の意味を理解し、数の感覚を豊かにする。【思判表】

活 たすのかな ひくのかな

学習内容

小見出し	時	ページ	学習内容
	1	148～149	○たし算やひき算の場面に即して、適切にたし算やひき算の演算決定をすることができる。

* ふくしゅう

学習内容

小单元	時	ページ	学習内容

	1	150~151	○既習事項の確認と持続
--	---	---------	-------------

21 100までのかずのけいさん

目 標				指導時数・時期
○ 100までの数について、数構成に基づくたし算、ひき算の計算の仕方を考えることを通して、計算ができるようになるとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				4時間 2学期制：2月下旬
(知)・数構成にもとづくたし算、ひき算の計算の仕方を理解し、100までの数のたし算、ひき算ができる。				3学期制：2月下旬
(思)・数構成にもとづいて、たし算、ひき算の計算の仕方を考えることができる。				
(態)・数構成にもとづいて、たし算、ひき算ができるよさを知り、進んで用いようとする。				
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース
	1	152	・問1では、10ずつ数えて40と30を計算棒でつくらせて、あわせる操作をさせる。 ・問3では、10ずつ数えて70を計算棒でつくらせて、20を取り去る操作をさせる。	○40+30や70-20といった(何十)±(何十)の計算を、10のいくつ分と考えてする。【思判表】
	2	153	・計算棒で何十と何をつくらせ、それを操作して計算の仕方を身につけさせる。	○20+6や34-4といった100までの数の構成に基づいた計算をする。【態度】
	3	154	・計算棒を操作して、何十といくつになるかに着目させる。	○32+5のような(何十何)+(何)で繰り上がりのない計算をする。【知・技】
	4	155	・計算棒を操作して、何十といくつになるかに着目させる。	○27-4のような(何十何)-(何)で繰り下がりのない計算をする。【知・技】
				★けいさんのれんしゅう p.170の問10に進む。
				★けいさんのれんしゅう p.170の問9に進む。
				★コラム「25+10のけいさん」に挑戦する。 ★けいさんのれんしゅう p.170の問11の①～⑫に進む。
				★コラム「36-10のけいさん」に挑戦する。 ★けいさんのれんしゅう p.170の問11の⑬～⑭に進む。

22 おおいほう すくないほう

目 標				指導時数・時期
○ 求大・求小の場面の問題について、数図ブロックや絵、式などを用いて考えることを通して、それらを理解し問題を解くことができるようになるとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				2時間 2学期制：3月上旬
(知)・求大・求小の意味について理解し、問題を解くことができる。				3学期制：3月上旬
(思)・数図ブロックや絵、式などを用いて、求大・求小の問題を考えることができる。				
(態)・日常の生活場面での求大・求小の問題に興味・関心をもち、進んで解こうとする。				
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース
	1	156	・わかっていることや求めたいことをはっきりさせて、数図ブロックを操作して考えさせる。	○求大(大きい方を求める)の問題を、数図ブロックを操作したり、式にかいたりして解く。【思判表】
	2	157	・わかっていることや求めたいことをはっきりさせて、数図ブロックを操作して考えさせる。	○求小(小さい方を求める)の問題を、数図ブロックを操作したり、式にかいたりして解く。【思判表】
				★自分の力で図、絵、式などを用いて解き、考え方を説明する。
				★自分の力で図、絵、式などを用いて解き、考え方を説明する。

23 大きさくらべ(2)

目 標				指導時数・時期
○ 広さについて、広さを直接比べたり、任意単位を用いて比べたりする活動を通して、身のまわりのものの広さを比較し、広さの概念を養うとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				1時間 2学期制：3月上旬
(知)・広さの比べ方や任意単位を用いた測定の仕方を理解し、広さを直接比べたり任意単位を用いて比べたりすることができる。				3学期制：3月上旬
(思)・状況に応じて、比較する方法を考えることができる。				
(態)・身のまわりにある広さに関心をもち、進んで比べようとする。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	158~159	○広さは、重ねたり、ますの数を数えたりすることで比べられることを理解する。【知・技】	

活 かえますか？かえませんか？

小見出し	時	ページ	学習内容
	1	160~161	○1つの品物を50円で買えるか買えないかの場面で、50より大きい、小さいという数の範囲で判断をする。(見積もりの素地)

* もうすぐ2年生(1年のふく習)

小単元	時	ページ	学習内容
	1	162~163	○1年生の学習内容の確認と持続

	2	164～165
	3	166～167

★ けいさんの れんしゅう

学習内容

ページ

168～170

・1年生で学習した計算の練習

※「けいさんの れんしゅう」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。